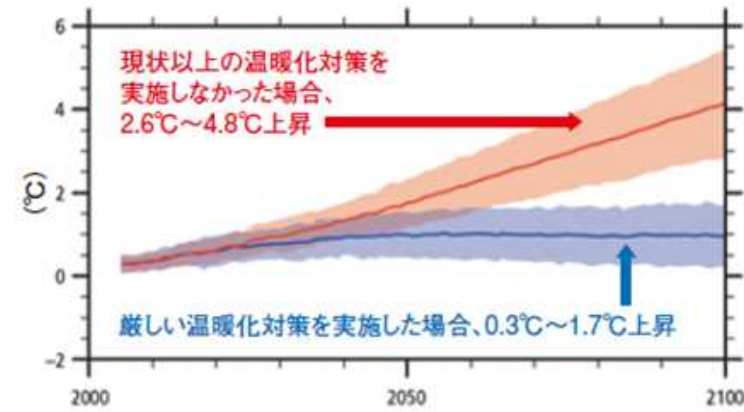


「地域気候変動適応計画の基本的事項(案)」の概要

I 趣旨 (P. 1～P. 6)

1 背景 【P. 1～P. 5】

- ▶ 世界の年平均気温が工業化以前よりも約 1℃上昇
- ▶ 21 世紀末には、1986～2005 年の平均に比べて 2.6～4.8℃上昇する可能性がある



世界の年平均気温の将来予測

出典：IPCC「Climate Change2014:Synthesis Report」

- ▶ 猛暑や豪雨等が農林水産物や県民生活等に影響を及ぼしており、気候変動リスクに対処するため、「緩和策」に加えて「適応策」の推進が必要



2つの温暖化対策～「緩和策」と「適応策」～

- ▶ 気候変動影響は地域によって様々で、全国一律の取組だけでは不十分
- ▶ 地域特有の影響に対応するためには、気候変動影響を把握し、農業、防災、健康等の各施策に適応の観点を組み込み、効果的な施策の推進が必要
- ▶ 多様な主体が連携し、取組む枠組みが必要

「兵庫県地球温暖化対策推進計画」を全面的に見直し、「地域気候変動適応計画」の概念や要素を包括した計画として改正する

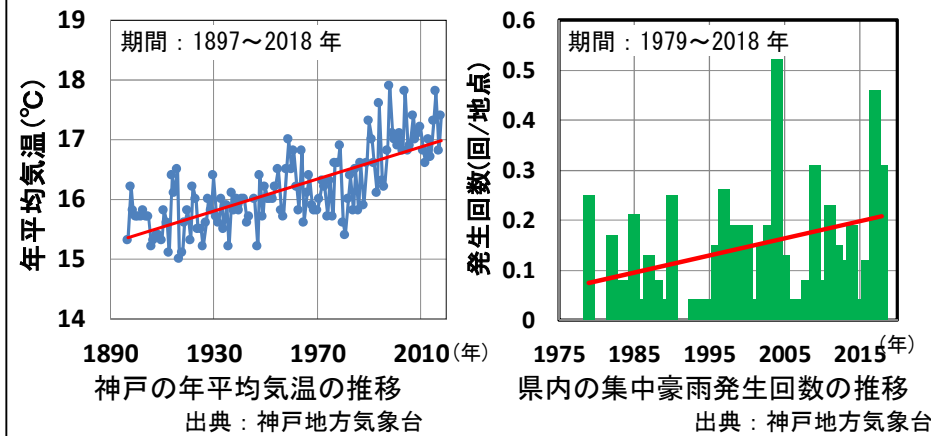
2 目標 【P. 5】

県民・事業者・行政等多様な主体の参画と協働のもと、積極的に適応策を推進し、気候変動影響による被害を回避・軽減する「気候変動に立ち向かうひょうごづくり」を目指す

II 県の地域特性と気候変動の観測・予測 (P. 7～P. 16)

1 気候変動の現状 【P. 8～P. 11】

- ▶ 県内地域で気温(年平均、最高、最低)の上昇が確認されている[下図参照]
[100 年あたりの年平均気温上昇率]
神戸:1.3℃ 豊岡:1.9℃ 洲本:1.0℃ (世界年平均気温:0.73℃上昇)
- ▶ 年降水量は変化傾向が見られないが、集中豪雨(50mm/h 以上)の発生回数は 40 年間で 2 倍以上に増加している[下図参照]
- ▶ 神戸の最深積雪が 10 年あたり 0.5cm の割合で減少しており、豊岡でも 4.3cm の割合で減少している

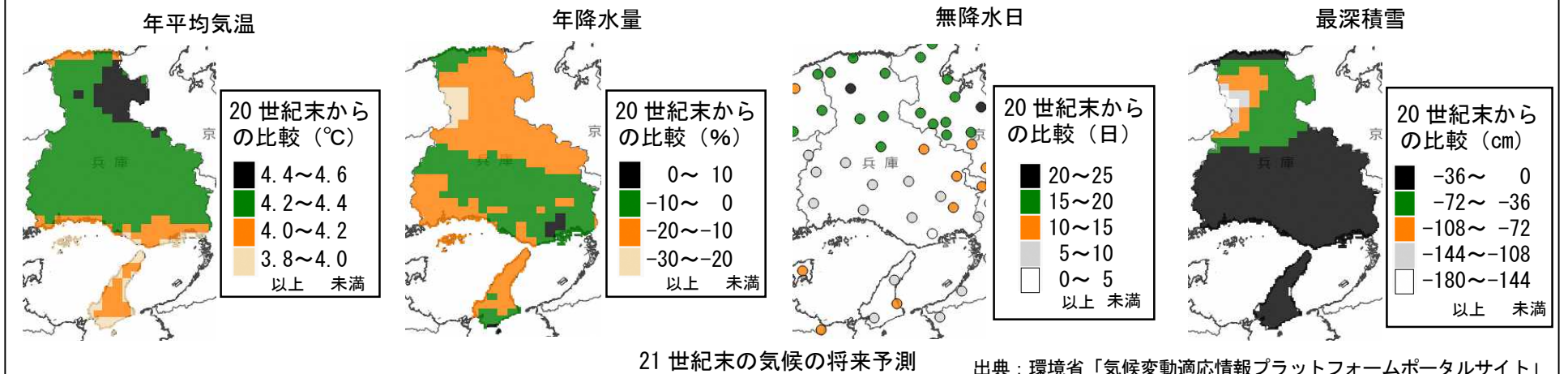


様々な分野で影響が顕在化している [気候変動影響と適応策]

2 気候変動の将来予測 【P. 12～P. 16】

【現状以上に温暖化対策を実施しなかった場合】

- ▶ 県内の 21 世紀末の年平均気温は、20 世紀末に比べて 3.8～4.8℃上昇
(世界年平均気温:2.6～4.8℃上昇)
- ▶ 神戸では真夏日や猛暑日が 2018 年の 2～4 倍に増加し、冬日はなくなる[右表参照]
- ▶ 年降水量に大きな変化は見られないが、集中豪雨と無降水日がともに増加する等、降水現象がより極端になる[下図参照]
- ▶ 年降雪量及び最深積雪が全地域で大幅に減少する[下図参照]



21 世紀末の気候の将来予測

	1981～ 2010年 平均値	2018年	21世紀末
真夏日(最高気温が30℃以上)	55日	61日	120日
猛暑日(最高気温が35℃以上)	3日	12日	43日
熱帯夜(最低気温が25℃以上)	43日	51日	102日
冬日(最低気温が0℃未満)	8日	15日	0日

神戸における真夏日等の将来予測

出典：神戸地方気象台提供資料を基に兵庫県が作成

様々な分野で影響が想定される [気候変動影響と適応策]

水環境・水資源、自然生態系

1 気候変動影響 [P. 22~P. 25]

【現況】

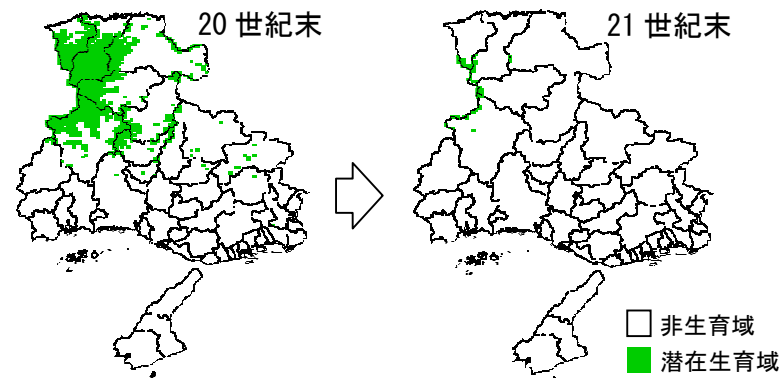
- ▶ 瀬戸内海や日本海の水温が上昇
- ▶ 1995~2010年に20種の維管束植物が絶滅
- ▶ 桜の開花の早期化
- ▶ 氷ノ山のブナ林生育範囲が減少



県内では見られなくなった「ヤチスギラン」

【将来予測】

- ▶ 水質や栄養塩等の流出特性の変化
- ▶ 年間の無降水日数は約10日増加し、渇水リスクが増加
- ▶ 植物の開花や昆虫の発生時期の変化
- ▶ ブナの潜在生育域（生育に適した環境条件の地域）がほぼ消滅 [下図参照]



21世紀末のブナの潜在生育域の将来予測

出典：環境省「気候変動適応情報プラットフォームポータルサイト」

2 適応策 [P. 43~P. 45]

【現在の取組】

- ▶ 河川、湖沼、瀬戸内海等の海域の継続的な水質測定調査
- ▶ 節水型ライフスタイルの普及啓発
- ▶ 水の安定確保のための水道施設の計画的な更新
- ▶ 「生物多様性戦略」に基づき、生物多様な森づくり等の生物多様性保全対策等の推進
- ▶ 生息数が著しく減少（増加）している鳥獣の保護（管理）

【今後の取組の方向性】

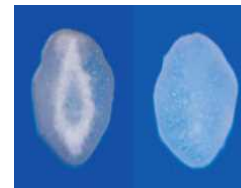
- ▶ 海域の窒素・りん濃度の下限値に基づく栄養塩の適切な供給の拡大等に資する施策の展開
- ▶ 集落への出没等の人と野生動物との「あつれき」の解消、農林業等への被害の軽減、食害等による生態系への影響を軽減するため、野生動物の個体数管理、被害管理、生息地管理等の取組の推進

農業、森林・林業、水産業

1 気候変動影響 [P. 26~P. 32]

【現況】

- ▶ 白未熟粒の発生等で米の品質が低下し、キヌヒカリの一等米比率は約10%減少 [下図参照]
- ▶ 野菜の収穫時期の早期化、生育障害の発生
- ▶ 山崩れ等の山地災害が発生
- ▶ ノリの種付けや育苗時期の遅れ、養殖適期の短縮による養殖量の減少 [下図参照]

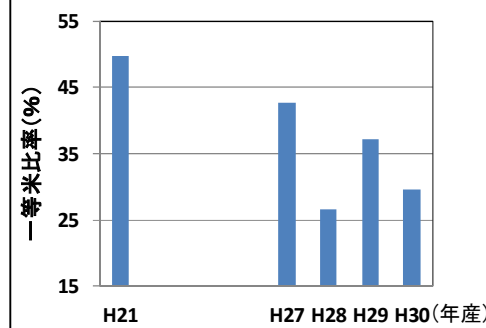


白未熟粒と正常粒 (左) (右)

出典：農林水産省ホームページ

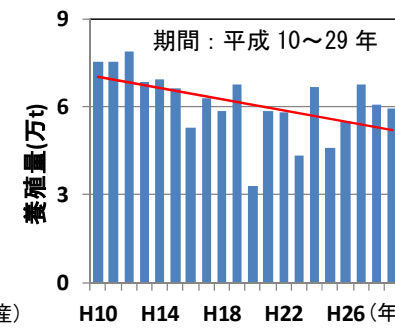
【将来予測】

- ▶ 多くの地域で米の収量が5割未満に減少（品質を重視した場合）
- ▶ みかんの主要産地である淡路地域のほとんどが栽培不適地に变化
- ▶ 山崩れ等の山地災害の発生頻度が増加
- ▶ イワシ、サバ、アジ、ヒラメ、タイ等の漁獲量が減少



県内のキヌヒカリの一等米比率の推移

出典：兵庫県農産園芸課調べ



県内のノリ養殖量の推移

出典：兵庫県水産課調べ

2 適応策 [P. 46~P. 50]

【現在の取組】

- ▶ 稲等の移植時期の適正化の推進
- ▶ 稲の高温耐性品種「きぬむすめ」への転換・普及
- ▶ 「山田錦最適作期決定システム」の開発
- ▶ 治山ダム等の設置や防災機能を高めるための間伐等の実施
- ▶ 木材生産や森林の適正な維持・管理に必要な林道の整備
- ▶ 高水温化に対応したノリ等の養殖品種の作出や生理特性の解明
- ▶ 来遊量の変動した漁獲対象種の資源管理方策や有効利用法の提案

【今後の取組の方向性】

- ▶ 高温耐性、病虫害抵抗性を備えた品種の育成及び収量性・品質の向上等の栽培技術の開発
- ▶ 海域の適切な栄養塩管理等により、豊かで美しい瀬戸内海の再生を推進し、水産資源を維持・増大

自然災害

1 気候変動影響 [P. 33~P. 35]

【現況】

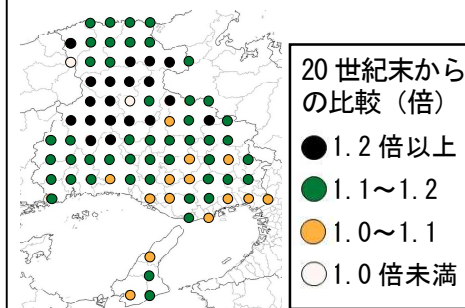
- ▶ 計画規模や施設能力を上回る洪水が発生
- ▶ 日本近海の平均海面水位は、1年あたり約1.3mmの割合で上昇
- ▶ 高潮による浸水被害が発生
- ▶ 土砂災害による被害が発生



洪水による落橋

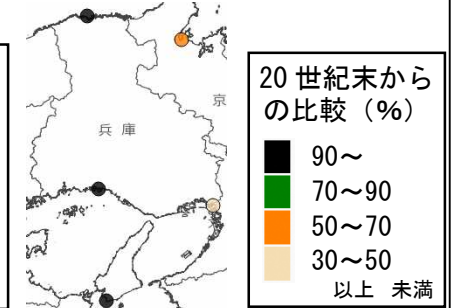
【将来予測】

- ▶ 集中豪雨の年間発生回数の増加により洪水リスクが増加 [下図参照]
- ▶ 海面上昇により播磨や但馬、淡路地域は90%以上の砂浜が消失。高潮の影響が加わることで沿岸部にも大きな被害が発生 [下図参照]
- ▶ 土砂災害発生リスクが増加



21世紀末の河川流量の将来予測

出典：環境省「S-8 温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究」提供データ



21世紀末の砂浜消失率の予測

出典：環境省「気候変動適応情報プラットフォームポータルサイト」

2 適応策 [P. 51~P. 55]

【現在の取組】

- ▶ 地域総合治水推進計画に基づく対策の推進
 - 河川改修や雨水管の整備等の河川・下水道対策
 - 校庭貯留やため池貯留等の流域対策
 - 防災学習や洪水浸水想定区域の周知等の減災対策
- ▶ 港内カメラ、潮位等観測情報、CGハザードマップ等の整備・運用
- ▶ 治山ダムや砂防堰堤、急傾斜地崩壊防止施設等の整備
- ▶ 災害発生時に緊急情報を発信する「ひょうご防災ネット」の運用

【今後の取組の方向性】

- ▶ 防災施設の整備等のハード対策と、訓練・防災教育等のソフト対策を適切に組み合わせ、効果的に施策を推進
- ▶ 「自助」と「共助」からなる地域防災力の向上と、「公助」の機能強化を適切に組み合わせ、官と民が役割分担して取組を推進

健康

1 気候変動影響 [P. 36 ~ P. 37]

【現況】

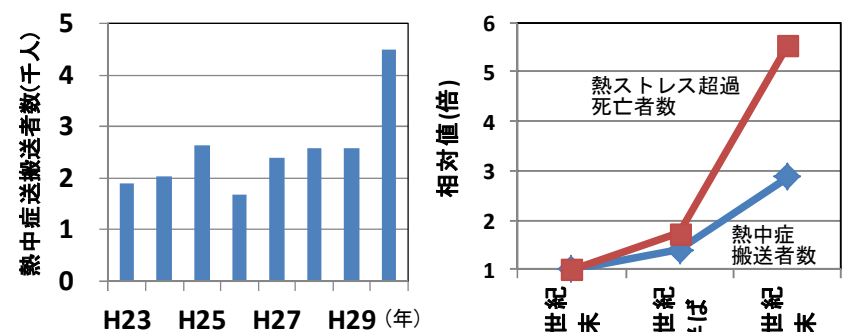
- ▶ 熱中症搬送者数が増加しており、特に平成 30 年は例年の約 2 倍に増加[下図参照]
- ▶ デング熱の感染が否定できない症例が発生
- ▶ 熱帯等に分布するヒアリやセアカゴケグモが県内で確認
- ▶ 光化学オキシダント濃度が上昇



神戸市で発見されたヒアリ

【将来予測】

- ▶ 熱中症搬送者数が約 3 倍に、熱ストレス超過死亡者数が約 6 倍に増加[下図参照]
- ▶ デング熱を媒介するヒトスジシマカの生息域が県内のほぼ全域に拡大
- ▶ 光化学オキシダント等の濃度上昇に伴う健康被害が増加



出典：総務省資料を基に兵庫県が作成

出典：環境省「S-8 温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究」提供データ

2 適応策 [P. 56 ~ P. 57]

【現在の取組】

- ▶ チラシ、県ホームページによる熱中症予防の普及啓発
- ▶ 県立学校の全普通教室への空調の設置
- ▶ 感染症情報の提供、洪水時における市町への消毒等の指示
- ▶ 光化学オキシダント等大気汚染物質の現状把握のための調査・研究ならびに県民への情報発信及び注意喚起

【今後の取組の方向性】

- ▶ 一定期間涼むことができる「クールスポット」の一層の普及
- ▶ 県立学校の特別教室（音楽教室、家庭科教室等）への空調の設置
- ▶ 健康被害を及ぼす外来生物の侵入初期段階での早期発見や定着阻止に向けた対策等、防除指針による適正な防除

産業・経済活動

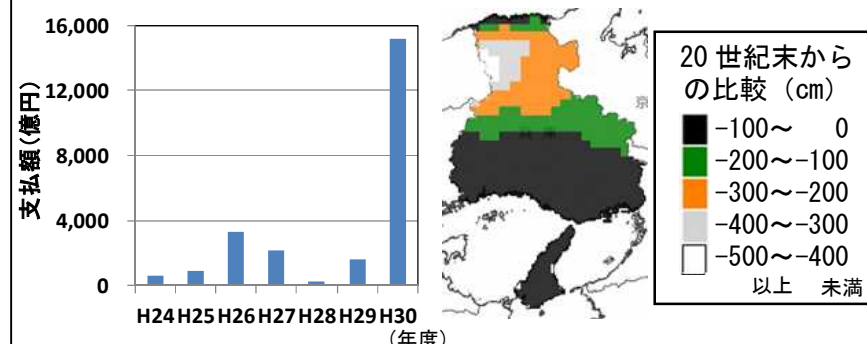
1 気候変動影響 [P. 38 ~ P. 40]

【現況】

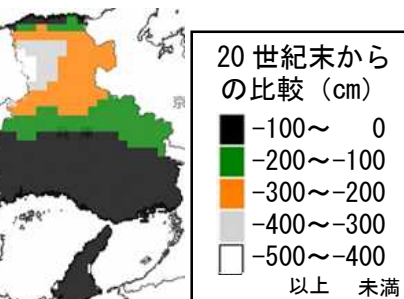
- ▶ 工場等の浸水や、それに伴う生産設備や製品等への被害が発生
- ▶ 国内全体では自然災害に伴う保険金の支払額が増加しており、特に平成 30 年度は例年の 4 ~ 10 倍以上に増加[下図参照]
- ▶ 営業日数の減少等によりスキー場利用客が減少

【将来予測】

- ▶ 企業の生産活動や生産設備の立地場所選定に対する影響
- ▶ 北部では降雪量が 200 ~ 500cm 減少することで、スキー場の閉鎖や利用客が大幅に減少[下図参照]
- ▶ 砂浜の消失に伴い、沿岸部でのレジャーが大幅に縮小



出典：一般社団法人日本損害保険協会資料を基に兵庫県が作成



出典：環境省「気候変動適応情報プラットフォームポータルサイト」

2 適応策 [P. 58 ~ P. 59]

【現在の取組】

- ▶ 国が定めるガイドライン（自然災害時の対応含む）の普及啓発等を通じた県内中小企業の事業継続計画（BCP）策定の促進
- ▶ 一時滞在施設や備蓄品の確保、適切な情報の提供等、旅行者の安全安心を確保するための環境の整備

【今後の取組の方向性】

- ▶ 適応ビジネス等の新たな事業展開への挑戦を推進するため、経営革新を支援するほか、企業の連携による新商品開発や販路開拓、官公需の受注機会の拡大を促進
- ▶ 産地事業者や産地組合のブランド創出、新技術開発に対する支援等を行い、本県ならではの新たなツーリズム資源を発掘・創出

県民生活

1 気候変動影響 [P. 41 ~ P. 42]

【現況】

- ▶ 風水害による鉄道や航空機等の運休、道路の封鎖、停電の発生
- ▶ 地球温暖化とヒートアイランド現象の重なりより、地域間で最低気温が 2℃ 以上



浸水した道路

【将来予測】

- ▶ 上下水道や電気、鉄道等のインフラ・ライフライン等に対するさらなる影響

2 適応策 [P. 60 ~ P. 61]

【現在の取組】

- ▶ 被害を受けにくく、迅速な復旧を可能とする水道施設整備の推進
- ▶ 市町等との相互応援協定に基づき、被災市町と応援市町間の調整を実施する等、市町の災害廃棄物対策を支援
- ▶ ヒートアイランド対策として、建築物、その敷地の緑化の推進、住民団体等の緑化活動を支援する県民まちなみ緑化事業の実施

【将来の取組の方向性】

- ▶ 地域資源を活用した再生可能エネルギーの地産地消等により自立・分散型社会を形成し、災害時のレジリエンス（強靱性）の向上につなげる「地域循環共生圏」の構築

分野横断

1 適応策 [P. 62]

【現在の取組】

- ▶ 県ホームページやパンフレットの活用による情報発信
- ▶ 県民向けアンケートやフォーラム等による情報共有・意識調査
- ▶ 県民協働による気候変動事象調査や適応策の検討
- ▶ 地域団体等への情報提供・活動支援を通じた環境学習・教育の推進
- ▶ 国、気象台、大学、民間研究機関、県研究機関等との連携による気候変動影響把握のための調査・研究

【今後の取組の方向性】

- ▶ 気候変動に関する情報を収集・整理・分析等を行う体制を確保し、県民・事業者・行政等の適応策の取組を推進
- ▶ 適応策の取組を浸透するため、あらゆる媒体を用いて情報を発信
- ▶ 施策の相乗効果等を考慮し、幅広い視点で適応策を推進

1 各主体の役割 【P. 63～P. 70】

県

- ▶ 本計画に基づき、適応策を総合的かつ計画的に推進する
- ▶ 適応策の具体的な取組事例等に関する情報の提供を通じて、県民、事業者等の適応策に関する理解の促進を図る
- ▶ 国、地方公共団体、事業者等、気候変動適応に関係する団体と広域的な連携を図り、地域特性を活かした適応策を効果的に推進する



気候変動への理解を深める県民フォーラム



県民から気候変動影響の情報を収集するワークショップ

市町

- ▶ 県民、事業者、地域団体等に最も身近な地方公共団体として、積極的に気候変動影響等に関する情報を発信する
- ▶ 施策等に適応の観点を組み込み、地域特性に応じた適応策を展開する

【市町が取組む適応策の例】

- ▶ 通常時及び渇水のおそれのある早い段階からの情報発信と節水の呼びかけを促進する
- ▶ 農林水産物への高温等の影響を回避・軽減する適応技術等の適応策の生産現場への普及を指導する
- ▶ 危険な場所や逃げる場所、方向等について周知を徹底するため、実践的な防災訓練や防災教育を行う
- ▶ 熱中症対策として、関係部局が連携しながら、気象情報の提供や注意喚起、予防・対処法の普及啓発を適切に実施する
- ▶ 市民活動による打ち水、グリーンカーテン等、ライフスタイルの改善に向けた普及啓発を行う



豊岡市で開催された市民総参加の防災訓練
出典：豊岡市ホームページ



神戸市内のイベントで行われた打ち水
出典：神戸市ホームページ

事業者

- ▶ 事業活動に影響する気候変動について理解を深める
- ▶ 将来の気候変動を見据え、適応の観点を組み込んだ事業展開を推進する
- ▶ 優良な適応策の取組例や、事業活動で得た気候変動に関する情報の提供等、県及び市町の適応策の推進に協力する

【事業者が取組む適応策の例】

- ▶ 高温耐性品種の導入や亜熱帯性の作物への転換等、気候変動に柔軟に対応する
- ▶ 水資源の安定確保、河川氾濫、水質汚染等の水リスクを把握する
- ▶ 浸水対策として電子機器をかさ上げしたり、商品・倉庫へ防水板を設置する
- ▶ 屋外に日射を避ける休憩場所を設置したり、水分等を常備する



稲の高温耐性品種「きぬむすめ」



防水板設置訓練

出典：環境省「気候変動適応情報プラットフォームポータルサイト」

県民

- ▶ 気候変動適応の重要性に対する関心と理解を深める
- ▶ 自らの生命・財産を守るための「自助」の取組に加え、地元自治会等の地域のつながりを活かした「共助」の取組を推進する

【県民が取組む適応策の例】

- ▶ 農林水産物の収量減少等に備え、普段から食品ロスを減らす
- ▶ 渇水対策として、炊事や洗濯、入浴時等、節水を心がける
- ▶ 災害に備え、食料品等を備蓄しておく
- ▶ 日傘の使用やこまめな水分の補給等、熱中症に備える
- ▶ グリーンカーテンを設置して直射日光を防ぐ

炊事：約 230 リットル
洗濯：約 240 リットル
トイレ：約 210 リットル
風呂：約 240 リットル
洗顔等：約 80 リットル

1 日あたりの水の使用量※
※平均的 4 人家族の場合

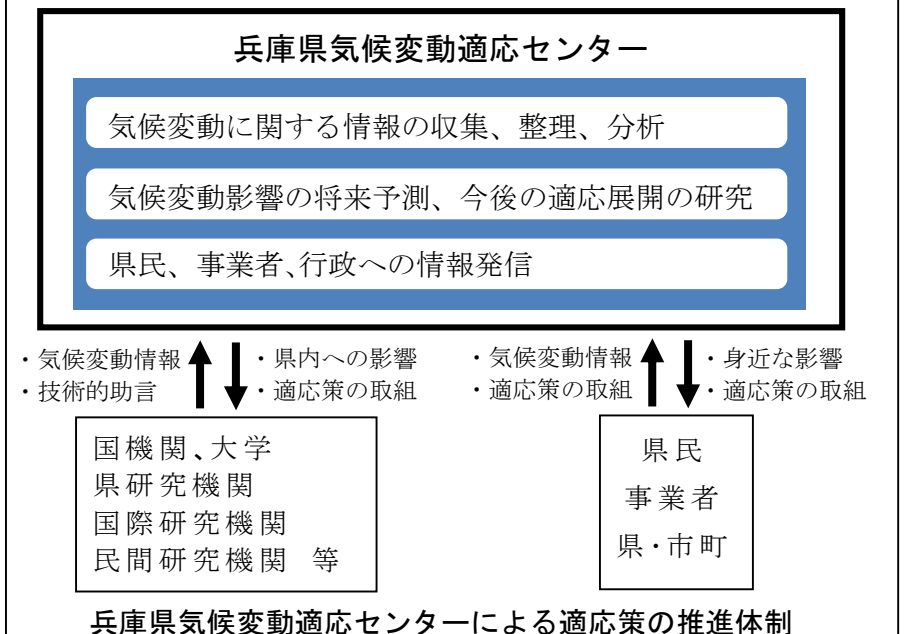
出典：環境省「気候変動適応情報プラットフォームポータルサイト」



熱中症の予防法

2 推進体制 【P. 71】

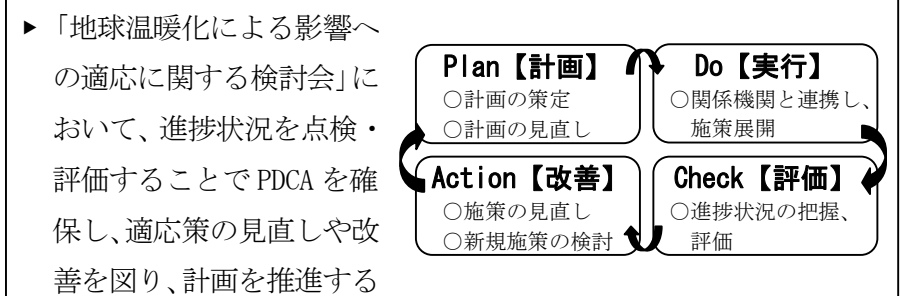
- (1) 兵庫県気候変動適応センターとしての体制確保
- ▶ 国・民間調査研究機関等と連携し、気候変動影響等に関する情報の収集等を行う「兵庫県気候変動適応センター」としての体制を確保する
- ▶ センターは、収集等した情報を県民・事業者・団体・行政等の様々な主体に分かりやすい形で提供し、気候変動に適応するための支援を行う



- (2) 庁内連携
- ▶ 庁内関係部局で構成する「地球温暖化による影響への適応に関する検討会」を中心に、適応策の取組を推進する

- (3) 多様な主体との連携
- ▶ 県民の日常生活や事業者の事業活動等から得られる気候変動影響に関する情報を収集する体制を整備し、気候変動の現状や課題の把握に努める

3 進行管理 【P. 71】



行政

海水温の上昇等による海洋の生態系への影響 ～豊かな海を守る～

瀬戸内海及び日本海では、近年、暖水系の魚介類が確認されており、海水温の上昇等による生態系や漁業への影響が懸念されている。

県は、海洋環境調査や生物調査を継続的に実施し、気候変動影響等の把握及び分析と、漁場形成の予測等を行っている。さらに、調査結果等をホームページで発信する等、豊かな海を守るために必要な活動に役立



調査船による海洋環境調査

【P. 44】(水環境・水資源、自然生態系)

酒米「山田錦」の品質低下 ～山田錦の品質向上を目指す～

栽培期間中の平均気温の上昇により出穂・成熟期が早まり、玄米の品質悪化に伴う検査等級・酒造適性の低下が問題となっている。

県は、山田錦の最適登熟条件を解明するとともに、その結果を用いて田圃ごとに最適な移植日を算出し、地域の移植日を一覧でできる「山田錦最適作期決定システム」を開発。山田錦産地全域に導入している。



地域ごとに移植日を
一覧でできる移植日マップ

【P. 49】(農業、森林・林業、水産業)

豪雨等に伴うため池の決壊 ～ICTを活用してため池の防災リスクを低減～

豪雨等でため池が決壊し、周辺に被害をもたらす事例が全国で発生しており、ため池の管理が課題になっている。

県は、ため池の水位や漏水量を遠隔監視する「ため池漏水見守りシステム」を試験的に導入している。システムの導入により、見廻り中の事故防止や早期の避難行動が可能となり、人的被害を軽減する効果が期待されている。



ため池漏水見守りシステム

【P. 54】(自然災害)

降雪量の減少に伴うスキー場の営業日数の短縮 ～年間を通してスキー場を活用する～

雪不足等により、近年はスキー客が減少傾向にあるが、今後はさらに降雪量が減少すると予測されている。

香美町では、スキー場のみに利用するのではなく、夏山イベント「姫ボタル瀬川平トレイルラン」の開催に加え、秋には「ハチ北音楽フェスティバル」の開催や、学生合宿の受け入れ等、四季を通してスキー場を有効に活用している。



姫ボタル瀬川平トレイルラン

出典：香美町
(写真提供：ハチ北観光協会)
【P. 65】(産業・経済活動)

事業者

気温の上昇等による規格外米の増加 ～増加する規格外米を使って新しい特産品をつくる～

酒米「山田錦」は、高級酒志向の高まりや海外需要の高まりにより生産面積が拡大しているが、気温の上昇などによる規格外米も増加している。

「山田錦ビジネス創造推進協議会」は、増加する規格外米を活用し、フリーズドライ味噌汁、米粉を使ったクッキー、山田錦黒酢などの新商品を開発し、新たな特産品として売り出している。



規格外米を活用したクッキー
「山田錦ほろほろ」

【P. 49】(農業、森林・林業、水産業)(産業・経済活動)

水温上昇に伴うワカメ種苗供給量の不安定化 ～漁業者みずからワカメ種苗をつくる～

夏場から秋口の水温が上昇したことで種苗の供給が不安定になったため、安定的に種苗を確保するために、「南あわじ漁業協同組合」はみずからワカメ種苗の生産を開始。

県水産技術センターの指導のもと、生産開始1年目で約3割の種苗を自家生産することに成功し、さらに、技術を応用してオリジナル品種の開発も行っている。



漁業者のワカメ種苗生産

出典：環境省「気候変動適応情報」プラットフォーム「リアルサイト」
【P. 68】(農業、森林・林業、水産業)

豪雨や高潮等の風水害被害の増加や甚大化 ～風水害から製品や従業員を守る～

川崎重工業株式会社では、「平成30年台風第21号」による高潮被害により、港倉庫に保管していた輸出用製品が浸水し、多くの製品を廃棄処分することになった。

同社はこうした気候変動リスクに対し、想定を超える事態に備えた損害保険の見直し、被災時の早期復旧に向けた非常用電源の確保等、事業への影響を最小限に抑える取組みを行っている。



非常用移動電源車

出典：川崎重工業株式会社
【P. 66】(自然災害)

風水害被害の増加や甚大化によるインフラへの影響 ～暮らしに欠かせないガスを安定して届ける～

豪雨や高潮等の風水害被害は今後も増加すると予測されており、事業者の原材料調達や製品の安定供給に影響を及ぼす可能性がある。

大阪ガス株式会社は、重要建物の密閉性の向上や設備のかさ上げ等の浸水・高潮対策に加え、原料・燃料等の調達先の気候変動リスクを考慮し、調達先の多様化を推進する等、原料・燃料等の安定確保に努めている。



浸水対策(設備のかさ上げ)

出典：大阪ガス株式会社
【P. 67】(県民生活)

県民

農林水産物の収量の減少や品質の低下 ～食材の変化に対応する～

気候変動の進行により、農林水産物の収量の減少や品質の低下、地域特産物が変化する可能性が指摘されている。

そこで、普段から食品ロスの削減を心がけたり、将来、地域で収穫される可能性のある亜熱帯性の農林水産物を積極的に受け入れる等、気候変動に伴う食材の変化に柔軟に対応する。



亜熱帯植物のゴーヤー
を使った料理

出典：農林水産省

【P. 69】(農業、森林・林業、水産業)

豪雨や高潮等の風水害被害の増加や甚大化 ～大規模災害に備える～

豪雨や高潮等の風水害被害は今後も増加すると予測されており、災害への備えがますます重要となっている。

自らの命を守るため、緊急気象情報や避難情報等を発信する「ひょうご防災ネット」への登録や、普段から避難場所や経路の確認するよう心がける。さらに、食料や懐中電灯、衣類等を準備し、万が一の事態に万全の準備をしておく。



備蓄品の例

【P. 69】(自然災害)

熱中症搬送者数の増加 ～万全な熱中症対策を心がける～

県内の熱中症搬送者数は増加傾向にあり、今後の気温上昇に伴い、患者数はさらに増加すると予測されている。

熱中症対策として、こまめな水分・塩分補給や通気性の良い吸湿・速乾の衣服の着用、日傘の使用等の熱中症予防対策に取り組む。また、暑い日はできるだけ朝・夕方に外出をする等、なるべく日中に外出しないようにする。



手軽にできる熱中症対策

【P. 69】(健康)

温暖化とヒートアイランド現象の重なりによる気温上昇 ～グリーンカーテンを設置する～

地球温暖化とヒートアイランド現象の重なることで、都市部での大幅な気温上昇が予測されている。

日のあたる窓や壁面を、ゴーヤーやアサガオ等のツル性植物で覆う「グリーンカーテン」を設置することで、日射の熱エネルギーを約80%カットし、室内や地面の温度上昇を抑える。



グリーンカーテン

出典：環境省
【P. 69】(県民生活)